

# 都学薬だより 第80号



一般社団法人  
東京都学校薬剤師会

HP : <http://www.togakuyaku.jp>

## 令和7年度叙勲・表彰

長年の学校薬剤師活動が認められ叙勲・表彰の栄に浴された皆様、誠におめでとうございます。



叙勲(春)  
瑞宝双光章  
田中 順子先生(個人)



叙勲(秋)  
瑞宝双光章  
昼川 美晴先生(個人)



文部科学大臣表彰  
人見 一男先生(目黒)



文部科学大臣表彰  
机 恵美子先生(板橋)



文部科学大臣表彰  
小田 和枝先生(練馬)



東京都功労者表彰  
服部 和美先生(世田谷)



東京都功労者表彰  
内田 千恵子先生(練馬)



東京都功労者表彰  
清水 誠治先生(京橋)



東京都教育委員会表彰  
岩下 哲哉先生（渋谷）



東京都教育委員会表彰  
向井 喜久子先生（板橋）



東京都教育委員会表彰  
上本 靖子先生（練馬）



東京都教育委員会表彰  
宮崎 嘉子先生（府中）



東京都教育委員会表彰  
根岸 紀史先生（世田谷）



東京都教育委員会表彰  
菊池 紀子先生（京橋）



東京都教育委員会表彰  
齋藤 景子先生（東村山）



東京都教育委員会表彰  
冨子 浩子先生（小金井）

掲載ご辞退

東京都教育委員会表彰  
濱野 明子先生（墨田）

## 学校プール施設管理に関するアンケート 報告

2020年度より実施した表記アンケートについては2023年度分を昨年12月の支部長会での中間発表を行いました。報告書としてまとめたものを、後日都学薬HPに掲載いたします。皆様のご協力ありがとうございました。

## 大会・研修会等報告

令和7年度  
学校環境衛生・薬事衛生研究協議会

片山 佳子

令和7年10月に前橋市で行われた表記大会をオンデマンド配信で聴講いたしました。

特別講演は東京大学・岸 哲史先生の「発達期における睡眠の意義と教育的支援」でした。睡眠の重要性については一般的にもよく知られていますが、睡眠不足が子ども達に与えるとして記憶の座である海馬や思考・感情の関わる前頭前野の体積減少など脳構造にまで影響が見られる、ということは驚きでした。岸先生は「子ども睡眠健診」プロジェクトを推進しており、そこでは児童生徒が腕時計型のデバイスを付けてそのデータを収集して独自の睡眠解析を行っています。その結果として、・小・中・高校に至るすべての年代で9割前後が推奨睡眠時間を満たしていないこと、・平日の睡眠不足を週末の寝坊で補うことによって生じる「社会的時差ぼけ」が多く起きていること・特に中3以上では社会的時差ぼけの影響で日中の眠気や集中力の低下、将来の健康リスクを懸念させる状況にあること、が明らかになり、睡眠改善への施策や教育の必要性をおっしゃっていました。また子どもの睡眠には親子で相関が見られることもわかり、保護者を含めた家庭全体の生活習慣への介入が改善には必要とされています。睡眠改善のためには、朝決まった時刻に起きて光を浴びること、朝食を食べること、日中に身体活動量を確保すること、過度な昼寝を割けること、などが必要ですが、これらは以前から言われていることです。デジタル機器により判りにくかった睡眠の状況が可視化されることで、正しい知識に基づく自己管理能力が育成され、わかってはいたが出来なかったことを実行していくこと、家族への介入といったことに繋がると感じました。また「睡眠健診」が予防医学の一つの項目として健康増進や病気の早期発見と対応、重症化予

防に発展する可能性を知ることが出来ました。

研究課題の中からは学校環境衛生活動について報告します。群馬県学校薬剤師会の小林正実先生の発表では太田市における長年の取組みと現状が報告されました。環境衛生測定機材の小型化・デジタル化が進み、検査室の整備も相まって、緊急要請にも即応できる体制が整ったこと、デジタル機器では検査前の校正（補正）を徹底していること、検査結果は数値報告だけでなく不適合部分の改善要望等も記載していることなど現場の状況に即した発表でした。県立宇都宮東高等学校 養護教諭の黒木博子先生の発表では、生徒保健委員活動で換気チェックや啓発が行われ自主的な環境維持に繋がっていること、学校薬剤師との協力で照度検査を頻回実施し照明のLED化や黒板への映り込み対策が実施されたこと、タブレット端末等の使用増に伴い生徒・教員の意識調査を行って照明環境の理解や目の健康の意識を高める取組みを行ったことなどが発表されました。その後の質疑応答では、学校薬剤師の地域差（業務量、報酬、人員）が課題であることが議論され、これはどの地域でも共通の問題であり、かつ簡単な解決策は見いだせないことを再認識致しました。またアドバイザーからは気流測定の技術的指導があり、デジタル化する現代だからこそ、専門家である学校薬剤師には、機器の特性を熟知した正確な測定と、データに基づいた説得力のある改善提言（教育委員会や学校への働きかけ）が求められていると理解しました。

コロナ禍以降、研究大会でも配信が進んでいますが、家庭ですとなかなか集中して聞くことができず焦点を絞りきれない参加になることも感じています。ただしこれら研究大会は学校薬剤師についての現場情報を共有できる貴重な機会です。時間空間を超えた参加が出来るようになったことの有難さを享受し、

業務に役立てていきたいと思いました。

## 全国学校保健・安全研究大会

安西 眞理子

令和7年度 全国学校保健・安全研究大会は、令和7年11月20日(木)・21日(金)の2日間にわたり、横浜市において参集開催及び後日オンデマンド配信(「記念講演」と「課題別研究協議会」のみ配信)の開催方法で行われました。

記念講演「現代的な健康課題の解決に向けた 学校保健・安全の体制づくりをめざして」講師 国立学校法人横浜国立大学 教育学部教授 物部 博文 氏からありました。

児童生徒の健康及び安全の課題は、地域の特性、自然環境、社会環境をはじめとする、うめこまれた状況のなかで生じる。また、学校における保健・安全への取組も同様に、そこに存在する人やその関係性、専門家の存在や関係教育の前提条件あるいは土台であるゆえに、教員たちの目から見過ごされ、表出した課題への対応に追われている場面もあるのではないかと推測する。改めて、私たち教員が健康・安全への学びを深め、それらを支える様々な専門家との対話を通し、協働的に健康や安全な学校を創っていくことが社会から求められているのではないだろうか。今、目の前にいる児童生徒の課題を、健康や安全という視点で再度捉えなおし、置かれた状況の中で何ができるのかを考えてほしい。今回の研究大会の取組の中にもそのヒントが多くあると期待する。と講演されました。

### 2日目の課題別研究協議会

1. 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育＝近年、青少年の喫煙や飲酒、薬物乱用が広がりを見せ、依然として深刻な状況にあることから安全で豊かな社会と自らの健康を守り育てるための教育を充実する必要がある。

そのため、発達の段階に則し、喫煙や飲酒、薬物乱用の防止教育を推進する方法について国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部心理社会研究室室長嶋根卓也氏の講義がありました。また 安全で豊かな社会と健康を守り育てる

ための喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方の指導助言が、大阪府立文野高等学校校長木場恒樹氏よりありました。

研究発表は、岡山市立中山中学校養護教諭松尾由美恵氏・相模原市立向陽小学校学校薬剤師神原大輔氏・山梨県立白根高等学校教諭山田耕二氏よりありました。

2. 学校環境衛生＝快適な学習環境を作るためには、環境衛生活動の充実を図るとともに、教職員及び児童生徒が学校における環境衛生について関心を持つことが必要である。

そのため、学校環境衛生基準を踏まえた学校環境衛生活動の進め方について東京薬科大学教授北垣邦彦氏の講義がありました。また快適な学校環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方の指導助言が、東京都教育庁都立学校教育推進課片上香織氏よりありました。研究発表は、川崎市立井田中学校の学校薬剤師八鍬広幸氏・、岐阜県教育委員会体育健康課坂井田弥希氏・浦安市舞浜小学の養護教諭と学校薬剤師畑中範子氏よりありました。

## 第44回学校薬剤師基礎研修会 「採光と照明検査」

田中 順子

令和8年2月14日、表記の研修会が新宿区戸塚地域センターにおいて、午後6時30分から開かれました。講師は(一社)日本照明工業会(JLMA)技術部担当部長鈴木篤氏にお願いしました。(一社)日本照明工業会は現在正会員(メーカー)163社、賛助会員(団体・学会・研究者)26の大きな組織で、情報発信、普及活動、標準化(JIS、IEC、ISO、CIE)の国際的活動、国内の誘導灯・非常灯・埋め込み型照明器具・殺菌灯・公共施設用照明器具の承認事業などを主な活動としておられます。また、日本政府が提唱する未来社会のコンセプト Society 5.0の社会に対応する次世代照明として、明るさを得るためだけの照明ではなく「健康」「安全」「快適」「便利」な高付加価値な照明、Lighting 5.0を提唱しておられます。

採光と照明検査については、建築基準法における採光の規定、学校環境衛生基準、関係法

令などを確認しながら、照度計の選び方、照明設計や照度の種類を説明していただきました。特にグレアと呼ばれる眩しさの一種は不快段階が 30 段階程あるものですが、対象面から目に届く光の「輝度」の室内分布を調べてグレア防止用器具で対策しなければなりません。テレビなどは反射防止フィルムを貼るそうです。ただ、一般的な日本人は黒い目の虹彩の人が多く、世界的に見ると他人種よりまぶしさに強い傾向にあるそうです。

照明器具では、一般照明用の蛍光灯の製造と輸出入は段階的に規制されていますが、最終的に 2027 年末ですべて禁止になります。それを受けてこれからは蛍光灯を LED に交換することが増えると思われます。その時蛍光管と同じ明るさのもので交換すると器具の保守率が良かった場合、明る過ぎる危険性があります。ヒトは年々網膜照度が下がりより明るい照度が良いと感じるのですが、小学生・中学生には大人(成人)以上に明るく眩しく見えているのです。また、視覚過敏の子どもも教室にはいるので苦痛や不快感を持つ可能性が高いようです。実際に子供たちに見え方を聞くのも良いかもしれません。ほとんどの場合、明るめに設計されるそうですが、照明器具を交換する時、明る過ぎにならないように注意が必要です。

照明については、光度(cd)、輝度(cd/m<sup>2</sup>)、光束(ルーメン)、照度(ルクス)などの要素がありますが、照度も水平面照度、鉛直面照度、法線照度があり設計では一般的な机上面照度・床面照度になります。照度(対象面に入ってくる光の強さ)×反射率=輝度(対象面から目に届く光の強さ)ですが、輝度分布がわかれば物や空間の見え方が分かります。様々な視覚的な現象も、輝度情報をもとに処理されて知覚されるからです。

講義での参加者からの質問は主に器具の交換に関するものでしたが、JIS より厳しい「公共施設用」を使うように、また、眩しい場合は机の配置を変えてみる事を教えていただきました。その他蛍光灯を破損したときの換気、水銀のことを考えて始めは掃除機を使わないように教えていただき、大変貴重な講義でした。

## 令和 7 年度薬物専門講師研修会

副会長 井戸 久夫

令和 8 年 2 月 23 日、都庁第一本庁舎 5 階大会義場にて午後 2 時より開催されました。この研修会は、薬物専門講師証明書の 3 年ごとの更新や新規交付を受ける方々に必須の研修会です。

町田美紀麻薬・医薬品安全対策専門課長の挨拶の後、薬務課の正木みほ薬物乱用対策担当から配布資料を参照しながら約 30 分の講義がありました。

(1) 薬物専門講師証明制度の運用状況等について

3 年間有効な薬物専門講師証明書の更新と新規取得の手続きについての説明が中心でした。

(2) 東京都の取組紹介～薬物乱用防止啓発活動について

薬物乱用が拡大する背景には、(1) インターネットや匿名性の高い SNS 等を利用し、電子マネー等により薬物を容易に購入できてしまう、(2) インターネット等で「大麻には害がない」などの誤った情報が流れ、大麻に対する有害性の認識が低くなっている。(3) 先輩・友達からの誘いは断りにくく、仲間はずれになることを恐れて使用してしまう。(4) 不安や生きづらさを感じ、精神的苦痛を解消するために使用してしまうことがあると考えられるとのことでした。

使用される代表的な薬物について特に最近のトピックにおいて「市販薬のオーバードーズ(過剰摂取)問題が取り上げられていました。薬局やドラッグストアなどで購入できる市販薬の誤った使い方、10 代の若者の市販薬乱用・依存が深刻化していることへの注意でした。

東京都では、我々学校薬剤師が薬物乱用防止活動をする場合に助けとなる啓発資材の貸し出しや配布資材の提供を行っています。興味のある方は都庁麻薬対策係(TEL03-5320-4505、FAX03-5388-1434)にお問い合わせください。10 分の休憩後、80 分の予定で警視庁刑事部薬物銃器対策課薬物銃器対策第二係田中秀樹警部補より「薬物事犯・操作の現状について

て」講演がありました。

配布資料はなく、メモを取りながらパワーポイントや映像を見るわけですが、内容がリアルで、新聞やテレビのニュースでは知ることのできない最前線の内容で、講師の話に引き込まれメモを取ることも忘れてしまいました。薬物の話の最後に海外製の玩具銃について話がありました。プラスチック製なのに実弾を発射できる玩具銃が外国より相当数国内に入ってきていること。油断の出来ない世の中になりつつあります。

これから大いに気になることとして、若者を中心とした大麻、市販薬オーバードーズ問題、THCが混入していたら大問題のCBD商品、最近流行りだしたゾンビタバコ(指定薬物:エトミデート)、フェンタニル等医療現場外での使用問題等です。これからも簡単に薬物が入り可能な社会にならないような対策と人々が薬物に興味を持たない社会を作るため一緒に頑張りたいと思います。

社会から薬物乱用がなくなるためには、皆様の学校において学校薬剤師の皆様が子供たちに薬物乱用防止教育を行っていただくのが一番の近道だと思います。会員の皆様、各学校の薬物乱用防止教室の講師を積極的に引き受けください。講演等にご都合がつかない場合は、講師はやはり学校薬剤師が最適任と考えますので、東京都学校薬剤師会事務局(TEL03-3518-4707, FAX03-3518-4708)へ講師派遣の依頼をお願いいたします。講師を紹介いたします。

毎年2月ごろこの薬物専門講師研修会が開催されます。内容は、最新の情報も満載されていて毎回参加している私にとりまして、研修内容、配布資料とも大変役立っております。すぐに講師になってくださいとは言いません、役立つ情報満載のこの研修会参加され配布資料を入手し、講義、講演をお聞きになることをお勧めいたします。

## トピック

### 学校環境衛生基準の一部改正について(通知)

標記の件について、令和8年2月27日付けで文部科学省から通知がありました。令和8年4月1日施行です、改正された箇所はオ、エチルベンゼンの室内濃度指針値が $3800 \mu\text{g}/\text{m}^3$ から $370 \mu\text{g}/\text{m}^3$ になったことと検査方法の表示が変わりました。都学薬のホームページに対比表を載せました。

### 文部科学省総合教育政策局健康教育・食育課 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 第二条第十五項に規定する指定薬物及び同法第七十六条の四に 規定する医療等の用途を定める省令の一部改正について(施行通知)

新たに4物質が指定薬物に指定されました、都学薬ホームページに載せました。

### 令和8年度の予定

- 令和8年5月28日(木) 都立高・ビル管講習会 都民ホール
- 令和8年5月28日(木) 代議員総会 18時30分～ 新宿区戸塚地域センター
- 令和8年6月13日(土) 基礎研修会 18時30分～新宿区戸塚地域センター
- 令和8年8月22日(土) アルコール健康教育・薬物乱用防止教育研修会 全水道会館
- 令和8年9月12日(土) 基礎研修会 18時30分～新宿区戸塚地域センター
- 令和8年9月24日(木) 学校保健(学校薬剤師)講習会 都民ホール
- 令和8年11月7日(土) 基礎研修会 18時30分～新宿区戸塚地域センター
- 令和8年12月5日(土) 支部長会 18時30分～新宿区戸塚地域センター

# 代 議 員 会 報 告

## 令和8年度会費賦課額 (案)

担 当 校 種 別	会 費 額
1 校 の 場 合	1 4 , 0 0 0 円
2 校 の 場 合	2 5 , 0 0 0 円
3 校 以 上 兼 任 の 場 合	3 5 , 0 0 0 円

## 令和8年度 収支予算(案)

自：令和8年(2026)4月1日 至：令和9年(2027)3月31日

一般社団法人 東京都学校薬剤師会

単位：円

科 目	予 算		増 減	備 考
	令和7年度	令和8年度		
収入の部				
1、会 費	11,960,000	11,960,000	0	
1) 正会員費	11,000,000	11,000,000	0	
2) 賛助会員費	960,000	960,000	0	
2、委託金収入	1,000	1,000	0	
3、補助金	400,000	450,000	50,000	
1) 都学校保健会	300,000	300,000	0	
2) アルコール健康医学協会	100,000	150,000	50,000	
4、雑収入	26,000	45,000	19,000	
1) 利息収入	16,000	25,000	9,000	
2) 諸雑収入	10,000	20,000	10,000	
5、記念誌積立金取崩	1,000,000	700,000	△ 300,000	
6、運営準備金取崩		1,000,000	1,000,000	
合 計	13,387,000	14,156,000	769,000	

(正会員)

14,000	×	470	=	6,580,000
25,000	×	118	=	2,950,000
35,000	×	42	=	1,470,000

(賛助会員)

60,000	×	15	=	900,000
30,000	×	2	=	60,000
				合計 11,960,000円

(単位:円)

科 目	予 算		増 減	備 考
	令和7年度	令和8年度		
支出の部				
1、事業費	5,655,000	5,945,000	290,000	
1) 研究費	490,000	490,000	0	
2) 情報収集・渉外費	400,000	400,000	0	
3) 機器・備品整備費	5,000	5,000	0	
4) 研究大会講習会費	990,000	950,000	△ 40,000	
5) 薬物乱用防止対策費	320,000	300,000	△ 20,000	
6) アルコール健康教育費	100,000	150,000	50,000	
7) 印刷製本費	400,000	400,000	0	
8) 表彰費	100,000	120,000	20,000	
9) 記念誌発行費	1,000,000	1,200,000	200,000	
10) 支部長会事業費	90,000	90,000	0	
11) 代議員会事業費	200,000	200,000	0	
12) 役員・理事会事業費	550,000	550,000	0	
13) 委員会事業費	370,000	370,000	0	
14) 理事実費弁償	110,000	110,000	0	
15) 通信運搬費	530,000	610,000	80,000	
2、支部運営費	3,300,000	3,300,000	0	
1) 支部運営費	3,300,000	3,300,000	0	
3、管理費	4,361,000	4,741,000	380,000	
1) 役員報酬	660,000	660,000	0	
2) 給料手当	850,000	900,000	50,000	
3) 臨時雇用賃金	9,000	9,000	0	
4) 福利厚生費	42,000	42,000	0	
5) 支払リース料	320,000	320,000	0	
6) 旅費交通費	20,000	20,000	0	
7) 什器備品費	5,000	5,000	0	
8) 修繕費	5,000	5,000	0	
9) 水道光熱費	310,000	310,000	0	
10) 賃借料	1,670,000	2,000,000	330,000	
11) 租税公課	10,000	10,000	0	
12) 事務委託料	340,000	340,000	0	
13) 手数料	15,000	15,000	0	
14) 消耗品費	95,000	95,000	0	
15) 雑費	10,000	10,000	0	
4、積立金	0	0	0	
1) 記念誌積立金	0	0	0	
5、法人税等	70,000	70,000	0	
1) 法人住民税	70,000	70,000	0	
6、予備費	1,000	100,000	99,000	
支出計	13,387,000	14,156,000	769,000	

一般社団法人東京都学校薬剤師会事務局

〒101-0054 千代田区神田錦町2-5 第一大隆ビル302

東京都学校薬剤師会へのご意見・お問合せはFAXでお願いします

FAX: 03(3518)4708 TEL: 03(3518)4707